

松戸市青少年教室 なんでも体験団 初夏の自然観察体験

自然に触れながら昆虫や植物などを観察しよう

川瀬美幸（柏市）

日 時：2025年7月5日（土）10:00～12:00、場所：21世紀の森と広場

参加者：14名（小学4.5年生）、担当指導員：渋谷・田島・川瀬、三嶋（事務局）

梅雨明け前だというのに、連日晴れて真夏日が続いている。当日も開始時間にはすでに30°Cを超えていて、子どもたちの体調を心配したが、自分自身も最後まで乗り切れるか少し不安になった。班に分かれてから「涼しい場所を探そう！」と、すぐに木陰に移動。コンクリート舗装から、地面が土の場所に移動したとたんに涼しさを感じたことには、子どもたちも私も驚いた。私の班の団員は4名で、1名は体調不良で当日欠席。最初にクールダウンを兼ねて座学を行い、この場所（21世紀の森と広場）の変遷を航空写真を見ながら確認した。60年前の白黒写真ではこの辺りは一面の田んぼで、今座って話している場所も田んぼの真ん中だったことが分かった。当時、田んぼで利用していた湧水が現在では「千駄堀池」の水源になっている、と話すと納得した様子だった。20世紀に完成した公園「21世紀の森と広場」は、君たちがお爺さんやお婆さんになる22世紀にはどうなっているのだろう？と質問を投げかけてみた。

楊枝をバッタに見立てたバッタゲームは盛り上がり、こちらの狙い通り緑色に塗った楊枝の捕獲が一番少なく内心ホッとした。良いアイスブレイクになったところで今度は本物のバッタ探し。茶色と緑色のショウリョウバッタやヒメギスなどを捕獲できたので、どうやって見つけたか聞くと「本物は跳ぶから分かるよ！」との答え。まったくその通り。ひとりの男の子がオオシオカラトンボを虫網で捕獲すると、皆は大喜びで順番に指で挟んで持つてみた。ダンゴムシ以外の虫には触ったことがない、と話していた女の子は恐る恐るトンボを指で持ち「人生初！」と言って喜んでいた。トンボの羽ばたきが振動として指に伝わったのか、「ぶるぶる感じる～！」と表現していたのが印象的だった。

その後、木陰でクールダウンしながらドウダンツツジに張ったクモの棚網を観察し「クモの巣」と「クモの網」との違いを説明。クモの命綱を使ったマジックも伝授したところ一人の子がツボにはまつた様で何回もトライしていた。

ハスの観察では、各自それぞれスプレーを持ち葉っぱに水を吹き付けて観察。最初は小さな水玉がコロコロ転がり、やがて大きな水玉に拡大していく様子を楽しんでいた。自分の手のひらにスプレーをしてみても水玉にはならない。どうしてだろうね？と問いかけると、皆は葉っぱを一生懸命虫メガネで観察していたが、一人の子が「触ると分かるよ！」と答えた。手触りでハスの葉の特殊技術を感じたらしい。用意したヨーグルトのフタで実験して、こちらも水玉になることを確認。ハスの葉の加工技術（ロータス効果）を真似しているね、と納得できた。また、ハスの花の香りを嗅いで、開いた花と閉じた花の香りの違いにも皆で気付くことができた。

集合場所に戻りながら、台地の下の湧き水を見て歩く。堅穴式住居を見学したことがあるという子がいたので、縄文時代は今歩いている場所は海だったことを説明し、なぜ集落をつくって縄文人たちがこの場所に住んだのか考えてみた。

最後にパークセンター内で今日観察した内容の振り返りを行い皆の感想を聞いた。

「トンボを捕まえた！」「はじめてトンボに触った！」「クモのマジックができた！」など、こちらの用意したバッタゲームやロータス効果の実験より、自分でやったこと、できたことがやはり印象に残るようだ。それぞれの子が「なんでも体験団」の使命を果たせたようなので良かった。体験することの大切さ、そこから自分で考えることの大切さなどを伝えて解散した。

（きれいに咲くハスの花、葉）

